

デュプリケータークイックガイド

電源投入

背面のコンセントを接続します。

※電源はタコ足配線にならないよう壁から一本で取ります。

本体右下にある電源ボタンを押します。

画面に幾つかの英語が出ます。

1. コピー という表示になれば起動完了です。

コピー手順

1. コピー が画面に表示されている時に○（実行）キーを押します。



キー配列



ジュンビチュウ

マスターディスクヲイレテクダサイ

という表示が出てトレイが全て開きます。

最上段のトレイにマスターディスクを置き、下の段にブランクディスクを置きます。

すべてのディスクを置いたら、実行ボタンを押します。

トレイが全て閉まり、コピーが開始されます。

コピー完了後、成功しているものはトレイが開きディスクを取り出せるようになります。

コピーを失敗したものはトレイが閉まったままになるので、成功したものを先に取り出しその後、閉まっているトレイを開閉ボタンで開けディスクを取り出します。

すべて成功した場合は成功したディスクとブランクディスクを入れ替え、実行ボタンをおすことで再度コピーが始まります。

失敗したディスクがある場合には、一度×（取消）キーをおし、もう一度 1. コピーが表示される部分からやり直してください。

コンペア手順

当機にはマスターとコピー後のディスクの整合性図るコンペアという機能があります。

1. コピーが表示されている際に上下キーでメニューの選択ができます。

3.コンペアに合わせ、実行キーを押し、マスター、及びコピーされたディスクをトレイに置いて 実行キーを押すとスタートします。コピー時と同様に成功時には排出、失敗時には入ったままとなります。

コピー後、自動でコンペアを行う5.コピー&コンペアという機能も有ります。

5.コピー&コンペアを選択し実行、操作方法はコピーと同じです。

コピー完了後一度トレイが開き、自動でコンペア動作に移りますので、一度ディスクが出てきた時点で取り出してしまうようご注意ください。

電源を切る

14.シャットダウンを選択し実行キーを押す。

電源を切るかどうかの旨が出るので再度実行キー

デングエンヲOFFデキマス が表示されたら本体右下の電源ボタンで切る

超クイックガイド

1. コンセントを差し込む
2. 本体右下の電源ボタンをON
3. 画面に「1.コピー」が表示され起動完了
4. 「1.コピー」で実行キーを押す
5. トレーが開くので最上段にマスター、他にブランクディスクを置く
6. 実行キーを押すとすべてのトレーが閉まり、自動開始
7. コピー完了後、成功時にはトレーが開く
- 7-1. 失敗時には失敗したものだけトレーが閉まったままになるので成功したものを取り除いた後、開閉ボタンを押し取り出す。
- 7-2. 連続でコピーを行う場合、コピー後のディスクを取り出しブランクをいれ、実行キー

コピー終了

1. ディスクを全部取り出し、取り消しボタンを押すことで終了
2. マスターディスクを取り出す。

電源を切る

1. 「14.シャットダウン」に合わせて実行キー
2. シャットダウンするか聞いてくるので再度実行キー
3. 「デンゲンをOFFデキマス」が表示されたら、本体右下の電源ボタンでOFFにする。

上記手順を踏まずに電源をOFFにするとファームウェアが飛んでしまい、起動不能になります。

この場合、保証期間であっても修理費用がかかりますので電源を切る際は必ず、上記手順を踏んでください。

光学ディスクデュプリケーター



写楽 シリーズ

写楽PROシリーズ

SRPRO - 16x

SRPRO - BDx(P)

SRPRO - xV



VP写楽シリーズ

VP - xS(-DN)

VP - xSVU(L)





VP - xC(-DN)

VP - BDx(XL)











安全上のご注意

ご使用いただく前に、以下の注意項目をご確認いただき、正しい使用を行ってくださいようお願いいたします。誤った使用を行った場合には、お使いいただく方や周りの方、および環境へ損害を与える危険がございますので、くれぐれもご注意ください。

 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定されることを示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険または物的損害の発生が想定されることを示しています。
	△ 記号は「気をつけるべきこと」を表しています。 (左の記号は「感電注意」を意味しています)
	○ の中に＼の記号は「してはいけないこと」を表しています。 (左の記号は「分解禁止」を意味しています)

警告

水が掛かる恐れがある場所や、屋外には置かないこと 感電や火災の原因となります。	
電源には交流100ボルトを使用すること 交流100ボルト以外を使用した場合は、感電や火災を引き起こすおそれがあります。	
電源プラグの金属部分（コンセント挿入部分）にホコリや水が付着している場合には、良く拭き取ってから使用すること 電源プラグの絶縁不足により放電し、火災の原因となります。	
電源コードの付け根や本体が切断していないか確認すること 切断箇所が導体に触れることで感電や火災を引き起こすおそれがあります。	
煙が出ていたり、異音がしたり、変なおいがしたりした場合には即座に使用を中断し、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから引き抜くこと 使用を続けると、火災や感電、破裂等を引き起こすおそれがあります。	
本製品に強い衝撃を与えたり、破損したりした場合には即座に使用を中断し、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから引き抜くこと 使用を続けると、火災や感電、破裂等を引き起こすおそれがあります。	
本製品のすき間や通風口などから物を差し込んだり中に入れたりしないこと 本製品が破損したり、感電したりするおそれがあります。 誤って物が入ってしまった場合には使用を中断し、コンセントを引き抜き、各販売店までご連絡ください。	
本製品の上に花びんやコップなどの液体が入った容器を置かないこと 本製品が破損したり、感電したりするおそれがあります。 誤って液体が掛かってしまった場合には使用を中断し、コンセントを引き抜き、各販売店までご連絡ください。	



警告

<p>雷が鳴り始めたら本製品に触れないこと 感電するおそれがあります。</p>	
<p>不安定な場所や、弱い土台の上に載せて使用しないこと 本製品が落下してけがの原因となったり、破損したりするおそれがあります。</p>	
<p>お客様ご自身で当製品の修理、改造、分解を行わないこと 必要となった場合には各販売元へご連絡、ご相談ください。</p>	



注意

<p>通風口の前に物を置いたりしてふさがないこと 本製品が高温となり、やけどを負うおそれがあります。また、本製品を破損することがあります。</p>	
<p>本製品を移動する場合には、コンセントから電源プラグを引き抜いてから行うこと 電源プラグを引き抜かず移動させようとすると、電源コード、コンセント、本製品との接合部分を破損したり、引っ掛けて本製品を落下させてしまい、けがを負ったりするおそれがあります。</p>	
<p>電源プラグを引き抜く場合に、コード部分をつかんで引き抜かないこと ケーブルやコンセントが破損するおそれがあります。</p>	
<p>濡れた手で電源プラグを差し込んだり引き抜いたりしないこと 感電するおそれがあります。</p>	
<p>直射日光の当たる場所や、高温になる場所に設置しないこと 本製品が高温となり、火災や故障の原因となります。</p>	
<p>湿度が高くなる場所やホコリが多い場所に設置しないこと 火災を引き起こしたり、感電したりするおそれがあります。</p>	
<p>問題が発生していないか定期的にチェックを行うこと 以上の項目に該当しないか、定期的にチェックを行ってください。不明な点がある場合には、各販売店にご相談ください。</p>	

使用上のお願い

取り扱いに関すること

- 引越しなどで遠くへ運ぶ場合は、傷が付かないように毛布等で包んで下さい。
- 殺虫剤や揮発性のものを掛けたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させると、変色したり塗装が傷む場合があります。
- 長時間ご使用になると、天板・側板・後部などが多少熱くなることがありますが、故障ではありません。
- 使用しない時は電源を切して下さい。
- 長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、時々電源を入れて下さい。
- 製品を梱包してある箱および付属品は、修理や点検の際に必要なことがありますので、保管することをお勧めします。

使用場所・ご使用時は

- 操作パネルやドライブなどの汚れは、柔らかい布で軽くふき取して下さい。
- 汚れがひどい時は、水で薄めた中性洗剤を使い、よくふき取して下さい。
(ベンジンやシンナーは塗装を傷める原因となるため使用しないで下さい)

著作権について

BD/DVD/CDディスクには、著作権の付いた物が多く存在します。個人的に楽しむ目的以外の複製は、権利者の許可がある場合を除いて、法律で固く禁じられています。

当製品を使用し無断複製などの違法行為が行われた場合、当社は一切の責任を負いません。

一般に、レンタルや市販されているBD/DVD/CD作品にはコピーガードが付与されており、複製ができないようになっている場合があります。本製品にはそのようなコピーガードをはずす機能は付随しておりません。

CPRMディスク取扱いのご注意

※DVDディスクご利用の場合のみ

- CPRMガード処理済のマスターディスクについて
CPRMのコピープロテクトの掛かったディスクは完全にコピー出来ません。
CPRM対応メディアは通常のメディアにはない、暗号化領域を持っております。
デュプリケータでコピーが正常終了しても、再生できない仕組みとなっております。
- CPRM対応ブランクメディアについて
「地デジ対応」「デジタル放送対応」と表記のあるブランクメディアはCPRM対応です。
マスターディスクがCPRMコピーガードが掛かっている、いないに関わらず、CPRM対応メディアでコピーしたディスクを再生するには、ドライブ、ソフトウェアいずれの対応も必要となるため、再生互換性に問題が起こる可能性があります。

ご使用の前に

本製品をご使用になる前に、作業が効率よく進行するよう、下記の文章をお読み下さい。

1. ドライブについての注意

本製品はCD/DVD/BDのそれぞれのディスク規格に対応しております。ただし、接続するドライブによって対応する規格は制限されますのでご注意下さい。

DVD±Rドライブを装備したデュプリケータが対応可能となるのは、DVDとCDとなります。

BD-Rドライブを装備したデュプリケータは、DVD、CDと合わせてBDもコピーが可能です。

また、接続するドライブは全て同じメーカー、型番、ファームウェアのものにして下さい。違うドライブが混在した場合には正常に動作しない場合や、処理が失敗しやすくなったりする場合があります。

2. マスター（コピー元）ディスクについての注意

マスターディスクは、ファイナライズされた（クローズ状態）ものでなければ、正常にコピーが出来ない場合があります。ファイナライズされていない（オープン状態）のものは、ファイナライズを行ってからコピー作業を開始するようにして下さい。

なお、本製品にファイナライズ機能はございませんので、パソコンでマスターディスクを作成する際に、ファイナライズ処理まで済ませて下さい。

ファイナライズの有無を、本製品の「ユーティリティ」内「ディスクジョウハウ」にてチェックする事が可能です。不明な場合にはご活用下さい。

3. ディスクのコピー制限

一般的にレンタル用や市販されているDVDおよびBlu-ray作品には、コピーを防止する機能が付加されているため、複製することが出来ないようになっています。

なお、本製品にコピーガードをはずす機能は付随しておりません。

また、DVDのコピーは同一のディスク規格へしかコピーが出来ない制限もあります。

DVD±R (4.7GB) のディスクは、DVD±R (4.7GB) へのみコピーすることが可能です。

同じくDVD±R DL (8.5GB) についても、DVD±R DL (8.5GB) へのみコピーが可能です。

-Rと+R間も書込方式が異なりますので、同一容量であっても相互のコピーは出来ません。

4. 温度についての注意

室温が0℃以下の場所に24時間以上置いてしまうと動作しないことがあります。

その場合は、作業を開始する4時間前に19℃以上の部屋にて機械を温めて下さい。

それを行わずに動作を開始した場合には、修復不可能な損傷を引き起こす可能性がありますので、くれぐれもご注意下さい。

5. メンテナンスについて

本製品に搭載されている光学ドライブ部品は非常にホコリに弱く、一番の故障原因となっています。

使用する際には、なるべくホコリのない場所で使用し、機械の表面上に付着した汚れなども、こまめに掃除することをお勧めいたします。

※ ホコリの多い場所でドライブのトレイを開けると、ディスクを読み取るレンズや機械の内部にゴミを吸い込み、故障の原因となりますので注意して下さい。

内容物の確認（付属品一覧）



デュプリケーター本体



電源ケーブル



取扱説明書（本書）

各部名称

前面



← コントローラ

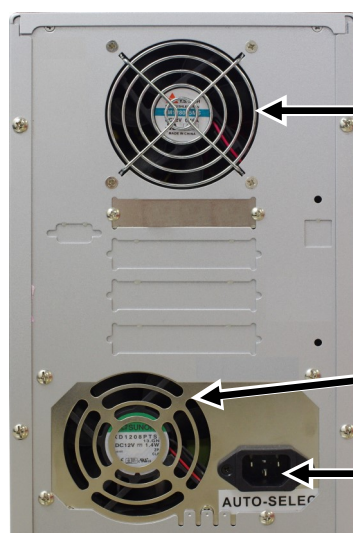
← 読込ドライブ

← 書込ドライブ

※モデルによりドライブ数は異なります。

← 電源ボタン

背面



← 排熱ファン

← 電源用排熱ファン

← 電源コード差込口

付属の電源コードを挿し込んで使用します



※写真はドライブ4台モデルを使用しています。
モデルによりドライブ数やデザインは異なりますのでご了承下さい。

ドライブ・コントロールパネル

ドライブ



ドライブパネル

右のイジェクトボタンが押されるとトレイが排出されますのでそこへメディアをセットします

アクセスランプ

メディアへの読込・書込時に点灯・点滅します

イジェクトボタン

パネルを開いてドライブトレイを排出させます
閉じる際にも使います

コントロールパネル



LCD液晶

メニューやメッセージを表示します

ショートカットボタン

よく利用されるメニューをワンタッチで呼び出します

操作ボタン

デュプリケータの操作全般を行ないます



上ボタン

メニューや設定画面で上にカーソルを移動します



下ボタン

メニューや設定画面で下にカーソルを移動します



決定 (ENT) ボタン

選択した内容を決定します / メニュー選択では次の画面に進みます



キャンセル (ESC) ボタン

選択した内容をキャンセルします / メニュー選択では前の画面に戻ります

メニュー一覧

※「9. HDDセットアップ」および「11. セットアップ」内の「9. デュプリモード」は、HDD搭載モデルのみ表示されます。 ※「11. セットアップ」内の「14. ガイブセツゾク」は、外部接続対応モデルにのみ表示されます。対応しない機器の場合は、それぞれ項目が繰り上がります。

メニュー表示		メニュー内容	参照
1. コピー		マスターディスクのデータあるいはHDDのイメージをブランクディスクに書き込む、デュプリケーターの基本機能です。	P13
2. BD イージー プロテクション		VガードBlu-ray簡易方式によるコピーを行い、コピーガード付のBDディスクを作成します。操作手順は「1. コピー」と同じです。 ※ 専用のBD-Rディスクが必要です。	P13
3. テスト		コピーをシミュレートし、データ内容やディスクの状態をチェックする機能です。実際の書込は行ないません。	P13
4. コンペア		マスター（原本）のデータと、複製されたディスクのデータが一致するか確認する機能です。	P13
5. テスト+コピー		テストを行った後に引き続いて自動でコピーを行ないます。	P13
6. コピー+コンペア		コピーを行ったあとに引き続いて自動でコンペアを行ないます。	P13
7. コピーソクド センタク		書込の速度（倍速）を設定します。 【標準設定値】CD:32x DVD:8x DVD DL:2.4x	P14
8. ソース センタク		コピー元のドライブを選択できます。	P14
9. ショウキョ		RW（書換可能）ディスクのデータ消去を行ないます。	P14
10. HDDセットアップ		HDDの設定、および操作ができます。[HDDを接続した場合のみ]	P15
	1. パーティション センタク	コピー元のパーティションを選択できます。	P15
	2. パーティション ロード	イメージの作成。マスターディスクからHDDにイメージを読み込みます。	P15
	3. パーティションメイヘンコウ	パーティション（イメージ）の名前を変更できます。	P16
	4. パーティション サクジヨ	パーティション（イメージ）の削除ができます。	P16
	5. パーティション ジョウホウ	パーティション（イメージ）の情報を表示します。	P16
	6. ヨミコミ ドライブセンタク	パーティションをロードする際に使うドライブを選択します。	P16
	7. HDDフォーマット	HDDを初期化します。（全てのパーティションが削除されます）	P16
	8. ファイル ナラビジュン	HDD内のパーティション（イメージ）が表示される順番を設定します。	P17

メニュー表示		メニュー内容	参照
11. CPI ユーティリティ		ディスク内に記録済のVガードイメージファイルをマスターとして利用する項目です。ディスクからの直接コピーまたはHDD転送を行います。	P18
	1. CPI ダイレクトコピー	Vガードイメージファイルが記録されたディスクをマスターとしてコピーを行い、コピーガード付のディスクを作成します。	P18
	2. CPI コピー+コンペア	Vガードイメージファイルが記録されたディスクをマスターとしてコピーを行い、コピーガード付のディスクを作成した後、自動でコンペアを行います。	P18
	3. CPI ファイル ロード	Vガードイメージファイルが記録されたディスクから、イメージファイルをデュプリケータ内のHDDにロードします。 ※ HDDが非搭載モデルではこのメニューは表示されません。	P18
12. オーディオトラック ヘンシュウ		複数の音楽CDからトラックを選択し、1枚のCDに編集して作成します。	P17
13. セットアップ		各種設定を行ないます。	P19
	1. ゲンゴセンタク	使用言語を選択できます。（日本語以外をご利用の場合に使用）	P19
	2. オートスタート	ドライブ内にディスクが検出されると、自動で処理を開始するオートスタート機能を設定します。	P19
	3. リードエラー スキップ	読込エラーが発生した場合に無視するエラースキップ機能の有効・無効を設定できます。	P19
	4. CDコピーモード	ディスクアットワンス、トラックアットワンスが選択できます。	P19
	5. オーディオCD, VCD&CDGソクド	音楽CD&ビデオCDの最大書込速度を選択できます。 【標準設定値】 16x	P19
	6. ブザー	ボタン操作や動作完了時などに鳴るブザーの有無を切替えます。	P20
	7. スタートアップメニュー	電源を入れた直後に表示されるメニューを設定します。	P20
	8. スクリーンセーバー	長時間液晶画面が同じ内容を表示すると発生する画面の焼き付きを防止するためのスクリーンセーバー機能を設定します。	P20
	9. デュプリモード	コピーの際、ディスクから一時的にHDDへデータを保存して行うか、直接書き込むかを選択します。[HDDを接続した場合のみ]	P20
	10. カウンター	1回の作業で連続処理を行うディスクの枚数を設定します。	P20
	11. DVD+Rコンパチモード	DVD+Rメディア向けのDVDプレイヤー互換モードの有効・無効を選択できます。	P21
	12. ISRC	ISRC（国際レーティングコード）を書き込み時に付与することができます。	P21
	13. ドライブノ ショウセツテイ	無効にするドライブを選択できます。	P21
	14. ガイブセツゾク	HDDをUSBやLANを介してPCと接続するモードに切替えます。 [外部接続ボード接続時のみ]	P21
	15. オーバーバーン	規定容量を超えたデータが書き込めるCDがコピーできるようになります。ただ、この機能を使うと再生互換性が低下します。	P22
	16. BD セーフ コピー メニュー	Blu-rayディスクの再生互換性を高めるコピーモードです。有効にすると「1. コピー」の次に「2. BD セーフコピー」が現れます。（Blu-rayのみ）	P22
	17. オートクイックコンペア	コピー後に簡易読取確認を行います。	P22

メニュー表示		メニュー内容	参照
14. ユーティリティ		システムに関する情報などを参照できます	P23
	1. ディスク ジョウホウ	ディスクの容量、フォーマット形式が確認できます。	P23
	2. プリスキャン	マスターディスクが正常に読み込めるか事前にチェックします。	P23
	3. システム ジョウホウ	コントローラ内のファームウェアバージョンが確認できます。	P23
	4. ソケット ジョウホウ	内部に接続されているドライブの情報が確認できます。	P23
	5. ロード デフォルト	実行すると全ての設定が初期の状態に戻ります。 (設定のリセット)	P24
	6. アップデートファームウェア	ファームウェアの更新を行ないます。	P24
	7. ドライブ ショウリレキ	光学ドライブの履歴（書込の成功、失敗枚数）を表示します。	P24
	8. セーブ	セットアップで設定した項目を保存します。	P24
15. アカウント カンリ		ユーザー毎にアクセス出来る機能を制限することができます。	P25
	1. ユーザカクニン	登録ユーザの確認ができます。	P25
	2. ユーザージョウホウ サクセイ	ユーザの登録ができます。	P25
	3. ユーザージョウホウ ヘンシュウ	登録ユーザのパスワードを変更できます。	P25
	4. ユーザージョウホウ サクジョ	登録ユーザの削除ができます。	P25
	5. キドウ パスワード	パスワード機能の有効・無効を設定できます。 パスワード初期設定値：0000	P25
16. オートコピー		HDDにロードする操作を行わず、1枚目のディスクを自動でマスターとして使用し、続くディスクに連続でコピーしていきます。	P26
17. シャットダウン		設定を保持したまま電源が切れる準備を行う機能です。必ずこの操作を行ってから電源スイッチを切って下さい。	P26

準備する

電源の操作

電源を入れる

- ① 電源コードと本体を接続し、コンセントを差し込みます。
- ② 本体背面にある電源ボタンを押し込みます。
- ③ 起動音が鳴り、以下の画面が表示されます。

VinpowerDigital X.XX
1.コヒー

電源を切る

- ① ディスクがドライブ内に残っていないのを確かめて下さい。
- ② メニューから『17. シャットダウン』を選択し、ENTボタンを押します。

VinpowerDigital X.XX
17.シャットダウン

↓ ENTボタンを、表示されるメッセージに応じて2度押す。

システムチェックOK!
デンゲンヲOFFデキマス

- ③ 『デンゲンヲOFFデキマス』と表示されたら電源ボタンを押し込みます。
- ④ 電源用アクセスランプが消灯したことを確認し、コンセントを抜きます。

※ シャットダウンの操作を行わずに電源を切った場合、コントローラ内の設定情報が消えたり、ファームウェアが破損してデュプリケータが正常に起動できなくなる場合がありますので、必ずこの操作を行ってから電源を切るようにして下さい。

※ モデルによって、シャットダウンの項目が15または16となる場合があります。



電源ボタン

HDDをマスターにしてコピーを行う

※HDDを接続した場合のみ

マスターディスクのデータをハードディスク（HDD）に保存してから、ディスクの複製を行うことが出来ます。HDD内に保存することにより、同じマスターを使って度々複製を行う場合等に、次の複製機会のためにマスターディスクを用意しなおす必要がなくなります。また、マスターディスクをその度を探すことなく、HDD内からデータを即座に読み出すことが出来るので、マスターの管理も簡単で確実になります。

HDD保存されたデータを「イメージ」と呼びます。また、本機内では区切りを意味する「パーティション」と呼んでいます。

まずはこのパーティション内にマスターのデータをロードする作業から行ないます。

- ① HDD内にイメージを作成したいデータの入ったマスターディスクを読込ドライブに挿入する。
- ② メニュー画面で『9.HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押す。
- ③ 『2.パーティション ロード』を選択し [ENT] ボタンを押す。
- ④ 『パーティションメイラ ツケテ ロード』『パーティションニ ロード シマス』『ウワガキ』のいずれかを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押す。

パーティションメイラ ツケテ ロード

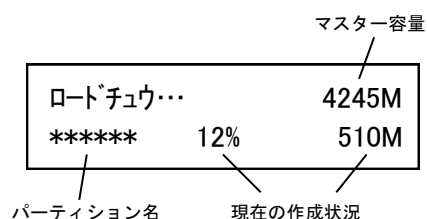
任意の名前を付けて作成します。

パーティションニ ロード シマス

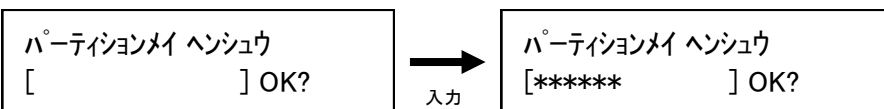
自動で通し番号を割り振った名前をつけて作成します。

ウワガキ

作成済のイメージ名を選択して上書き作成します。



パーティション名の付け方

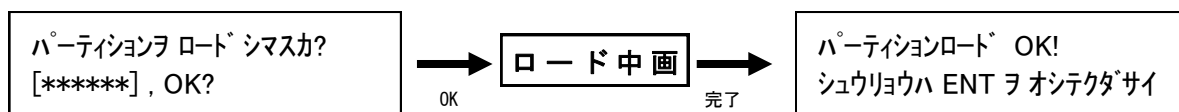


パーティション名の作成、変更時には上のような画面になります。

[] の枠内に黒い点が点滅していて [↑] [↓] ボタンを押すごとにアルファベットおよび数字が切り替わります。

また、[ENT] ボタンを押すことで先（右側）に進み、[ESC] ボタンを押すことで前（左側）に戻ります。

入力が完了したら画面で『OK?』と書かれている所まで [ENT] ボタンを押し、さらに押すと入力が決定し確認画面が出てきます。



表示されている入力したパーティション名に問題がなければ [ENT] ボタンを押してロードを開始します。

ロード中は右上のように作成状況が表示され、100%に達すると「パーティションロードOK!」と表示されますので、[ENT] ボタンで終了させます。

以上の操作により、イメージが作成できます。

コピーの実行

HDD内のイメージを利用してコピーを行う場合には、まず13ページの『7. ソース センタク』の操作で、HDDを選択しておきます。

続いて12ページの『1. コピー』の操作を行ってコピーを実行します。ここでマスターディスクを読込ドライブに入れる必要はなくなります。

メニュー別の操作説明

1.コピー

ブランクディスクへの書込を行います。

- ① コピー元となるマスターディスクを読込ドライブに、コピー先となるブランクディスクを書込ドライブにそれぞれセットします。HDD搭載モデルの場合でHDD内のイメージファイルをマスターにする場合にはマスターディスクを入れずに操作を行います。
- ② メニュー画面で【1.コピー】を選択して【ENT】ボタンを押します。

VinpowerDigital X.XX
1. コピー

- ③ マスターディスクとブランクディスクが検出され、自動的にコピーが開始します。
- ④ コピー完了後、自動的にディスクが排出され、結果が表示されます。

セイクウ:** シツハイ:**
シュウリョウハ ENTヲオシテタサイ

2.BDイーザープロテクション

※この項目はVガードBlu-ray対応モデルのみ表示されます

VガードBlu-ray簡易方式によるコピーを行い、コピーガード付のBDディスクを作成します。

VガードBlu-ray専用のメニューです。
操作方法や機能については別紙の「Vガード インストール・操作マニュアル」をご覧ください。

3.テスト

ディスクの書込をシミュレートし、動作チェックをします。（実際には書き込みません）

上記【1.コピー】項目の【1.コピー】のところを【3.テスト】に置き換え、同様の操作を行って下さい。

4.コンペア

書込済みのディスクが、正常に書きこまれたかどうかのチェックを行います。

上記【1.コピー】項目の【1.コピー】のところを【4.コンペア】に置き換え、同様の操作を行って下さい。
なお、コンペアは書き込まれたデータ内容が同一であるかをチェックし、書き込みもしくは読み込みエラーが発生していないかをチェックする機能ですので、書込で使用したものと同一イメージを指定して下さい。別のイメージを指定しますとコンペア失敗となります。

5.テスト+コピー

テストの動作に引き続き自動でコピー動作が行われます。（操作は共通です）

6.コピー+コンペア

コピーの動作に引き続き自動でコンペア動作が行われます。（操作は共通です）

7.コピーソクド センタク

コピー等の書込動作速度を指定します。（書込倍速設定）

- ① メニューから『7. コピーソクド センタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで、速度を指定したい項目を選択し [ENT] ボタンを押します。
【例：CD to CDソクド = CDから直接コピーを行う際の速度】
- ③ [↑] [↓] ボタンで速度（倍速）【例：16x】を選択し [ENT] ボタンを押します。[ENT] ボタンを押すとコピー速度選択の画面に戻りますので、他の項目を設定する必要がなければ [ENT] ボタンでメニュー画面に戻ります。
- ④ 『Saving...』と表示されている間お待ち下さい。わずかな時間を置いてメニュー画面に戻ります。

コピーソクド センタク：
CD to CDソクド

CD to CDソクド：
16x

8.ソース センタク

マスターとして利用するドライブを選択します。主に光学ドライブとHDDの切替で使います。

- ① メニューから『8. ソース センタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで、マスターとして利用するドライブ選択し [ENT] ボタンを押します。

ハードディスク Port 0.0
Seagate ST3500418AS



ドライブ 1 Port 1.0
Optiarc DVD RW AD-7260

ドライブは上から順に1, 2...と並んでいます。通常は一番上のドライブを読込用として使うため、オンザフライ（ディスクからディスクに直接書き込む方式）を行う場合には、ドライブ1を指定します。

HDDをマスターとして利用する場合には、先にこちらの操作でソースをHDDに設定しておく必要があります。

HDDセットアップを行った直後には、自動的にソースがHDDに切り替わるため、その後にオンザフライを行う場合にはソースをドライブ1に再設定して下さい。

9.ショウキョ

書換可能ディスク（RW）の内容を消去・初期化します。

- ① メニューから『9. ショウキョ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『クイックショウキョ』と『カンゼンショウキョ』を選択し [ENT] ボタンを押します。『カンゼンショウキョ（完全消去）』には多くの時間がかかりますのでご注意ください。
- ③ 『ショウキョスルディスクラ イレテクダサイ』と表示されますので、書込に対応したドライブにRWディスクを挿入します。挿入してわずかな時間のあとディスクが認識されます。
- ④ 『X ディスクケンシュツ, ジッコウ?』と表示されますので [ENT] ボタンを押します。
- ⑤ 消去が始まります。消去には多くの時間が掛かる場合がありますので、そのままお待ち下さい。

『ショウキョ』には2種類のモードが用意されております。目的・用途に合わせてお選びください。

・クイックショウキョ → 数秒で処理が終わります

ディスクの「目次部分」のみ消去し、データはそのまま残します。データは残っていますが、空のディスク（ブランク）として扱われるようになります。

・カンゼンショウキョ → 書込の場合と同等の時間が掛かります

ディスクを全てゼロのデータにします。すべての情報、データが消去されます。

※ 「クイックショウキョ」ではデータが残っているため、復元が容易です。ブランクディスクとして第三者に渡す場合などには、完全消去を行っていただくのをお勧めします。

ハードディスク全般の操作や設定を行います。

10-1.パーティション センタク

ハードディスク内に保存済みのイメージを選択します。

- ① メニューから『10.HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『1.パーティション センタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ ディスプレイにイメージデータ選択画面が表示されますので、任意のパーティションを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。

10-2.パーティション ロード

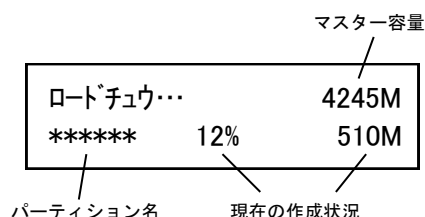
マスターディスクのデータをハードディスクへロードしてイメージ化します。

- ① マスターディスクを読込ドライブに挿入します。
- ② メニュー画面で『10.HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『2.パーティション ロード』を選択し [ENT] ボタンを押します。
『パーティションメイヲ ツケテ ロード』『パーティションニ ロード シマス』『ウワガキ』のいずれかを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押す。

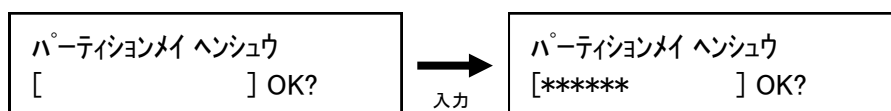
パーティションメイヲ ツケテ ロード
任意の名前を付けて作成します。

パーティションニ ロード シマス
自動で通し番号を割り振った名前をつけて作成します。
(NEW-0001から開始し、連番で割り振られます)

ウワガキ
作成済のイメージ名を選択して上書き作成します。



パーティション名の付け方



パーティション名の作成、変更時には上のような画面になります。
[]の枠内に黒い点が点滅していて [↑] [↓] ボタンを押すごとにアルファベットおよび数字が切り替わります。

また、[ENT] ボタンを押すことで先（右側）に進み、[ESC] ボタンを押すことで前（左側）に戻ります。
入力が完了したら画面で『OK?』と書かれている所まで [ENT] ボタンを押し、さらに押すと入力が決定し確認画面が出てきます。



表示されている入力したパーティション名に問題がなければ [ENT] ボタンを押してロードを開始します。
ロード中は右上のように作成状況が表示され、100%に達すると「パーティションロードOK!」と表示されますので、[ENT] ボタンで終了させます。
以上の操作により、イメージが作成できます。

10-3.パーティションメイ ヘンコウ

ハードディスク内に保存済みのイメージ名を変更します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『3. パーティションメイ ヘンコウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ ディスプレイにイメージデータ選択画面が表示されますので、任意のパーティションを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。
- ④ [↑] [↓] ボタンと [ENT] ボタンを使って名前を入力していきます。入力方法は『パーティションロード』と同一です。

10-4.パーティション サクジョ

ハードディスク内に保存済みのイメージを削除します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『4. パーティション サクジョ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ ディスプレイにイメージデータ選択画面が表示されますので、削除したいパーティションを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。
- ④ 削除して良いか確認の画面が表示されるので、良ければ [ENT] ボタンを、キャンセルする場合には [ESC] ボタンを押します。

10-5.パーティション ジョウホウ

ハードディスク内に保存済みのイメージを参照して内容を確認します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『5. パーティション ジョウホウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ ディスプレイにイメージデータの情報が表示されます。[↑] [↓] ボタンで情報を確認したいイメージを選択します。

パーティション番号	種別・容量
(001)	DVD 4245M
XXXXXX	.VEF
パーティション名	

10-6.ヨミコミ ドライブ センタク

ハードディスクロード時に使用する光学ドライブを指定します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『6. ヨミコミ ドライブ センタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 光学ドライブの選択画面となるので、読込に選択したいドライブを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。

10-7.HDDフォーマット

ハードディスクを初期化（全データ消去）します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『7. ヨミコミ ドライブ センタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 全てのデータを消去して良いかの確認画面が出るため、良ければ [ENT] ボタンを、キャンセルする場合には [ESC] ボタンを押します。
- ④ 一定時間が経った後、フォーマットが完了して自動的にメニュー画面に戻ります。

※注意

フォーマットを行うと、データの復旧は不可能となります。良くご確認の上、実行してください。

10-8.ファイル ナラビジュン

HDD内のパーティション（イメージ）が表示される順番を設定します。

- ① メニューから『10. HDDセットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『8. ファイル ナラビジュン』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで表示方法を選択し [ENT] ボタンを押して決定します。

デフォルト

パーティションが保存された順に表示されます。（標準）

アルファベット ショウジュン

パーティション名ごとに昇順（0から9、AからZ）に並べて表示されます。

アルファベット コウジュン

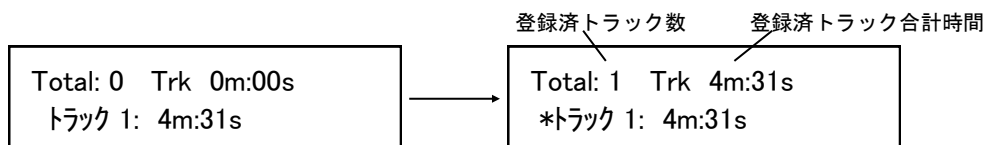
パーティション名ごとに降順（ZからA、9から0）に並べて表示されます。

※ この設定は「パーティション センタク」を実行する際に適用されます。

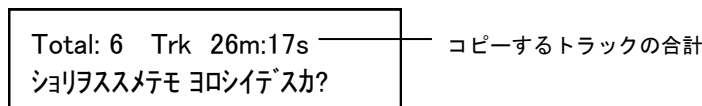
12.オーディオトラック ヘンシュウ

複数の音楽CDからトラックを選択し、1枚のCDに編集して作成します。

- ① メニューから『12. オーディオトラック ヘンシュウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② 「チョクセツblankディスクニヘンシュウシマス」か「HDDニヘンシュウシマス」のいずれかを選択し [ENT] ボタンを押します。 ※HDDを搭載しない機種はこの選択は表示されません。
- ③ 「チョクセツ～」の場合は上から2番目のドライブトレイが開きますので、そちらに作成対象となるblankディスクを入れ、続いて開いた1番上のドライブに編集元となる音楽CDを入れます。「HDDニ～」の場合は音楽CDのみを、開いたドライブのいずれかに挿入します。
- ④ 5～10秒程度のディスクチェックが行われた後、以下のようなトラック情報表示の画面になります。



- ⑤ 記録を行いたいトラックが選択されている状態で [ENT] ボタンを押します。トラック番号の左にアスタリスク（*）が表示され、編集対象に登録された事を示します。登録されると、上の表示が登録済の数量になり、合計時間が表示されます。アスタリスクが付いている状態で再度 [ENT] ボタンを押すと、登録が解除されます。続いて [↑] [↓] ボタンでトラック番号を切り替えながら登録をしていきます。
- ⑥ 全ての登録が完了しましたら、[↑] [↓] ボタンでトラックの末尾に切り替えますと下の画面が表示されますので、登録内容が問題なければ [ENT] ボタンを押してコピーを開始します。



- ⑦ コピーが完了しましたら、編集を終了するかの確認がありますので、良ければ [ENT] ボタンを押して、ディスクの完成処理（ファイナライズ）を実行します。引き続き別の音楽CDからトラックをコピーする場合には [↑] [↓] ボタンを押して、次のマスターを入れる画面に切り替えて作業を進めて下さい。

※注意

ディスクの完成処理（ファイナライズ）は最後に必ず実行してください。

ファイナライズされていない音楽CDは、プレーヤーで再生できない可能性が高いものとなります。

ディスク内に記録済のVガードイメージファイルをマスターとして利用する項目です。
ディスクからの直接コピーまたはHDD転送を行います。
機能について詳しくは別紙「Vガード インストール・操作マニュアル」をご参照下さい。

11-1.CPI ダイレクトコピー

Vガードイメージファイルが記録されているディスクから直接、コピーガード付のディスクを作成します。

- ① Vガードのイメージファイルが記録されたディスクを読込ドライブに、コピー先となるブランクディスクを書込ドライブにそれぞれセットします。
- ② メニュー画面で『11. CPIユーティリティ』を選択して [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『1. CPIダイレクトコピー』を選択して [ENT] ボタンを押します。

VinpowerDigital X.XX
1. CPI ダイレクトコピー

- ③ マスターディスクが検出されると画面が「CPIファイルガミツカリマシタ」となり、マスターディスク内のファイル名が表示されます。 [ENT] ボタンを押すとコピーを開始します。
- ④ コピー完了後、自動的にディスクが排出され、結果が表示されます。

セイクウ: ** シツハイ: **
シュウリョウハ ENT ヲオシテダサイ

11-2.CPI コピー+コンペア

CPIダイレクトコピーの後に続けてコンペアを実施します。

手順は「CPIダイレクトコピー」と共通です。コピーが完了した後に自動でコンペアが行われます。

11-3.CPIファイルロード

※この項目はHDD搭載モデルのみ表示されます

Vガードイメージファイルが記録されているディスクから、イメージファイルをデuplicレーター内のHDDへ転送します。

- ① Vガードのイメージファイルが記録されたディスクを読込ドライブに挿入します。
- ② メニュー画面で『11. CPIユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『3. CPIファイルロード』を選択し [ENT] ボタンを押します。

※注意

イメージファイルのファイル名のままHDDに保存されます。その際、ファイル名に日本語（全角文字）が使用されている場合は利用できませんのでご注意下さい。

Vガードイメージファイルのファイル名は全て半角英数字で入力して下さい。

13.セッティング

本体の挙動全般の設定を行います。

13-1.ゲンゴセンタク

液晶表示に使用する言語を選択します

- ① メニューから『13.セッティング』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『1.ゲンゴセンタク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 使用したい言語を選択し [ENT] ボタンを押します。以降、表示言語が変わります。

13-2.オートスタート

ドライブ内にディスクが検出されると、自動で処理を開始する機能を設定します

- ① メニューから『13.セッティング』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『2.オートスタート』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『ジドウ』『フル』『オフ』を切替えて、利用したいモードで [ENT] ボタンを押します。

ジドウ・・・全てのドライブにディスクが挿入された時点で処理が開始されます。ディスクが全てのドライブに挿入されていない場合は、30秒間の待機の後、自動で処理が開始されます。
フル・・・全てのドライブにディスクが挿入された時点で処理が開始されます。ディスクが全てのドライブに挿入されていない場合は、ENTボタンを押すまで処理は開始されません。
オフ・・・自動での処理開始は行われません。

13-3.リードエラースキップ

ディスクの読み込みエラーが発生した場合に、読込を中断するかを設定します

- ① メニューから『13.セッティング』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『3.リードエラー スキップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『リトライ後にオフ』『オフ』『オン』『ターボモード』から選択して [ENT] ボタンを押します。

オフ（サイシコウ）・・・エラー発生の場合にもう一度実行し、再度エラーの場合に読込を中断する。
オフ・・・エラー発生の場合、即座に読込を中断する。
オン・・・エラー発生の場合でも、軽微な場合には読取を中断せず続行（エラーをスキップ）する。
ターボモード・・・エラー発生の場合でも、深刻な状態でなければ読取を中断せず続行する。

13-4.CDコピーモード

CDの記録形式を指定します 『ディスクアットワンス』『トラックアットワンス』

- ① メニューから『13.セッティング』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『4.CDコピーモード』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで利用したい記録形式を選択し [ENT] ボタンを押します。

13-5.オーディオCD, VCD&CDGソクド

音楽CDやビデオCDの書込速度を設定します。（『7.コピーソクド センタク』とは別に設定されます）

- ① メニューから『13.セッティング』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『5.オーディオCD, VCD&CDGソクド』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで利用したい速度（倍速）を選択し [ENT] ボタンを押します。

13-6.ブザー

ボタンを押した時や動作が完了した時などに鳴るブザー音の有無を設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『6. ブザー』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン：音を鳴らす オフ：音を鳴らさない)

13-7.スタートアップメニュー

電源を入れた直後に表示されるメニューの種類を設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『7. スタートアップメニュー』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで起動時に表示したいメニュー項目を選択し [ENT] ボタンを押します。

13-8.スクリーンセーバー

液晶画面の長時間表示で発生する「焼き付き」を防ぐための機能を設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『8. スクリーンセーバー』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン：スクリーンセーバー機能を使う オフ：使わない)

13-9.デュプリモード

※この項目はHDDを接続していない場合は変更できません

コピーの際、ディスクから一時的にHDDへデータを保存して行うか、直接書き込むかを選択します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『9. デュプリモード』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『ロード&コピー』『オンザフライ』『プロンプト』を切替えて、利用したいモードで [ENT] ボタンを押します。

ロード&コピー・・・マスターディスクの読込が始まり、イメージの作成が開始されます。イメージの作成が完了したら引き続きブランクディスクへのコピーが開始されます。
(高速書き込み時に安定しやすくなります)

オンザフライ・・・マスターディスクから直接ブランクディスクへのコピーが行われます。
(HDDが搭載されていない場合はこのモードのみとなります)

プロンプト・・・上記2つのモードのどちらを使用するかを、コピー開始時に選択できます。

13-10.カウンター

連続してコピーを行い、その回数を決定するカウンター機能の有無を設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『10. カウンター』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン：カウンター機能を使う オフ：使わない)

13-11.DVD+R コンパチモード

DVD+Rメディア向けのDVDプレイヤー互換モードでの書込をするかの有無を設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『11. DVD+R コンパチモード』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン: 互換モード書込を行う オフ: 行わない)

13-12.ISRC

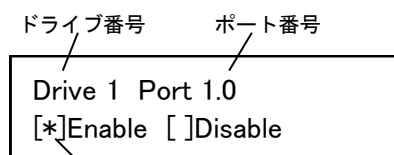
書込ディスクに国際レーティングコード(ISRC)を付与するかを設定します

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『12. ISRC』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン: ISRCを付与する オフ: 付与しない)

13-13.ドライブノ ショウセツテイ

一部のドライブを使用しないよう設定できます

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『13. ドライブノ ショウセツテイ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで変更したいドライブを選び [ESC] [ENT] で*マークを切替えます。
(Enable: そのドライブを使用する Disable: 使用しない)
- ④ 選択後に [↑] [↓] いずれかのボタンを押すと、設定を保存するかを確認する画面が出るため、良ければ [ENT] ボタンを、キャンセルする場合には [ESC] ボタンを押します。



13-14.ガイブセツゾク

※外部接続ボードを接続している場合のみ利用します

内部のHDDをUSBやLANを介してPCと接続する機能を有効にします

- ① メニューから『13. セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『14. ガイブセツゾク』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン: 外部接続を利用する オフ: 利用しない)

※設定後、本機の再起動（電源の入れ直し）が必要となる場合があります。
※ガイブセツゾクがオンの場合、デュプリケータからはHDDの認識が出来なくなります。デュプリケータと接続したPCから同時にHDDへアクセスする事は出来ません。（排他仕様）

13-15.オーバーバーン

規定容量を超えるデータCDを作成できるモードにします
(※作成したディスクの読取の互換性は低下しますのでご注意ください)

- ① メニューから『13.セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『15.オーバーバーン』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン：オーバーバーンを利用する オフ：利用しない)

13-16.BD セーフ コピー メニュー ※Blu-rayドライブを搭載している場合のみ表示されます

BDセーフコピーを有効にします。「1. コピー」の次に「2. BDセーフコピー」が現れます

- ① メニューから『13.セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『16. BD セーフ コピー メニュー』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『ヒョウジ』『カクス』を切替えます。(ヒョウジ：BDセーフコピーを表示する カクス：表示しない)

※ BDセーフコピーは、低品質メディアを利用した場合にも可能な限り再生互換性を高めるようコピー処理を実行するモードです。「1. コピー」で作成したBDディスクがプレイヤーで再生できない場合には、このメニューからコピーを行う事で改善する場合があります。

13-17.オート クイック コンペア ※DVDドライブを搭載している場合は16番に表示されます

コピー後に自動で簡易のベリファイ（読み取りチェック）を行います。

- ① メニューから『13.セットアップ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『17.オート クイック コンペア』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『オン』『オフ』を切替えます。(オン：Auto Quick Verifyを利用する オフ：利用しない)

※ クイックコンペアでは、コピー直後に10MB程度だけ読み取りを行い、記録が確認できた場合に成功、記録されていなかった場合に失敗として扱います。コピーのみの処理に比べて5秒から10秒ほどの処理時間が追加となります。コンペアとは異なり、内容の比較チェックは行いません。

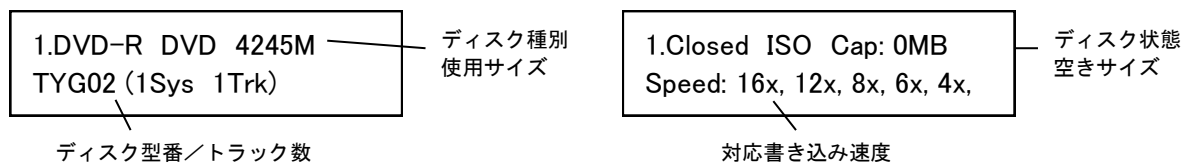
14.ユーティリティ

本機の情報参照します。

14-1.ディスク ジョウホウ

ディスクの容量、フォーマット形式が確認できます

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『1.ディスク ジョウホウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 情報を確認したいディスクを挿入（手動）し、しばらくするとディスクが検出されたと表示されますので [ENT] ボタンを押すと、下図のように情報が表示されます。さらに [ENT] ボタンを押すと情報が切り替わります。（下図の2種類）



14-2.プリスキャン

マスターディスクが正常に読み込めるか事前にチェックします

- ① 一番上のドライブにチェックしたいマスターディスクを挿入します。
- ② メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ [↑] [↓] ボタンで『2.プリスキャン』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ④ 画面に経過が表示され、読込が終了すると成功の可否が表示され、ディスクが排出されます。

14-3.システム ジョウホウ

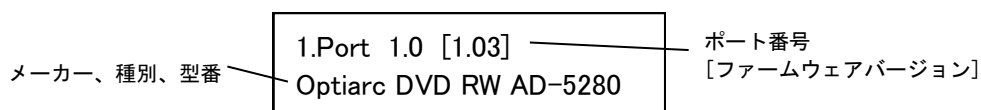
本機のファームウェアバージョンが確認できます

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『3.システム ジョウホウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ システムの情報が表示されます。メニューにもどる場合には [ESC] ボタンを押します。

14-4.ドライブ ジョウホウ

内部に接続されているドライブの型名、ファームウェアを確認できます

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『4.ドライブ ジョウホウ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 情報を確認したいドライブを [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。



14-5.ロード デフォルト

各種設定を初期状態に戻します

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『5.ロード デフォルト』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 初期化して良いのかの確認画面が表示されますので、良ければ [ENT] ボタンを、キャンセルする場合には [ESC] ボタンを押します。

14-6.アップデート ファームウェア

システムのファームウェアをアップデートします

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『6.アップデート ファームウェア』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ ファームウェアの書き込まれたディスクを挿入（手動）し [ENT] ボタンを押します。一定時間が経つとアップデートが完了し、電源を切るよう促す画面が表示されますので、電源を切って再起動します。

※注意

ファームウェアは、必要でない限りはむやみにアップデートしないでください。ファームウェアは機械の根幹に組み込まれたソフトウェアで、問題が発生した場合には動作不良に陥ることがあります。何らかの理由によりアップデートが正常に行われなかった場合、起動できなくなるおそれがあります。また、お客様の手によるファームウェアのアップデート作業により、本機に動作不良が発生した場合は、無償修理保証期間内であっても保証の対象外となりますので予めご了承下さい。

14-7.ドライブ ショウリレキ

光学ドライブの使用履歴（書込の成功、失敗枚数）を表示します。

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『7.ドライブ ショウリレキ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 以下の項目が表示されますので、ボタンを押して確認したい内容に切り替えて下さい。取り付けられた全光学ドライブにおけるディスクの種類別の通算成功・失敗枚数と、各ドライブごとの通算成功・失敗枚数がチェックできます。

[ENT] ボタン : ディスクの種類を切り替えます。(DVD、CD、BD)

[↑] [↓] ボタン : ドライブの種類（個体）を切り替えます。

14-8.セーブ

セットアップで設定した項目を保存します

- ① メニューから『14.ユーティリティ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで『8.セーブ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ 『Saving...』と表示された後、メニューに戻ります。

15.アカウント カンリ

操作を許可するユーザー（アカウント）を設定します

- ① メニューから『15. アカウント カンリ』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② [↑] [↓] ボタンで桁ごとのパスワード番号入力し [ENT] ボタンを押して桁を切り替え『OK?』のところまでカーソルを移動させたら再度 [ENT] ボタンを押します。

パスワード ニュウリョク
[] OK?

※初期（未設定時）のパスワードは『0000』です

- ③ 以下の項目から行いたい設定を [↑] [↓] ボタンで選択し [ENT] ボタンを押します。

15-1.ユーザーカクニン

現在、登録されているユーザ名を確認することが出来ます。

※注意： アカウントの再設定が出来るユーザは、管理者権限を有する『Admin』のみです。

15-2.ユーザージョウホウ サクセイ

新規アカウントを作成することが出来ます。作成時にユーザー名とパスワードを登録します。
アカウントを作成することにより、各自の設定やパーティションを占有することが出来ます。

15-3.ユーザージョウホウ ヘンシュウ

既存のユーザー名とアカウントを再設定できます。

管理者権限を有する『Admin』のユーザー名は変更出来ません。変更が可能なのはパスワードのみです。

15-4.ユーザージョウホウ サクジョ

既存のアカウントを、このメニューで削除出来ます。

管理者権限を有する『Admin』のユーザー名は削除できません。

15-5.キドウ パスワード

デュプリケータ起動時に、パスワードによる管理を行うか設定することが出来ます。

この機能を『ハイ』にすると、起動時にアカウントが表示され、既存のパスワードを入力しない限り、機械を操作することが出来なくなります。

※注意

設定したアカウント別のパスワードを忘れてしまうと、操作が行えなくなります。

特に、全操作の権限を有する『Admin』のパスワードについては、管理者が確実に管理するようお願いいたします。

16.オートコピー

自動でマスターディスクから操作停止をするまで連続でコピーを続けるコピーモードです

- ① コピー元となるマスターディスクを読込ドライブに、コピー先となるブランクディスクを書込ドライブにそれぞれセットします。
- ② メニューから『16. オートコピー』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ③ コピーが自動で開始されます。
- ④ コピーが完了するとディスクがドライブから出力されます。引き続き、別のディスクにコピーする場合には、新しいブランクディスクをドライブにセットして [ENT] ボタンを押します。必要な枚数のコピーが完了し、処理を終了させる場合には [ESC] ボタンを押します。

17.シャットダウン

正常に電源を切るための準備動作を行います

- ① メニューから『17. シャットダウン』を選択し [ENT] ボタンを押します。
- ② シャットダウンすることを確認するメッセージが表示されますので、良ければ [ENT] ボタンを、キャンセルする場合には [ESC] ボタンを押します。
- ③ わずかな時間、システムのチェックを行い、準備が完了すると電源を切るよう促すメッセージが表示されますので、その後に電源を切ってください。ドライブにディスクが入っている場合にはトレイが排出されますので、ディスクを取り除き、トレイを戻してから電源を切ってください。

※注意

シャットダウン操作を行わずに電源を切った場合には、設定が消去されて初期化されてしまったり、場合によってはファームウェアが壊れ動作が不良になったりする場合があります。

電源を切る前に必ず、シャットダウン操作を行うよう徹底して下さい。

エラーコード一覧表

画面に表示されるエラーの一覧と解説です。

コード番号	エラーメッセージ	解説
200	マスターニ データガ アリマセン	マスターディスクが検出されましたが、空のディスクです。マスターディスクの中にコンテンツがあるかどうか、もう一回チェックして下さい。
201	マスターニデータガアリマセン	マスターディスクが検出されましたが、3分以内に内容が解析できませんでした。不良のマスターディスクの可能性があります。ディスクの品質（汚れ、エラー等がないか）を確認して下さい。
202	ターゲットガ アリマセン	作業を開始された時に、書込ドライブにブランクディスクが検出されませんでした。書込ドライブの中にブランクディスクが挿入されているかを確認して下さい。
203	ドライブ or ファームウェアノ バージョンガ コンザイシテイマス	書込ドライブのそれぞれのファームウェアで一致しない物があります。最近、書込ドライブを交換しましたでしょうか？ 交換していないようでしたら、技術サポート窓口へお問い合わせ下さい。
204	ターゲット&マスターガ イッチシマセン	マスターディスクと書込ディスクのフォーマットが一致しません。メニュー「ユーティリティ」の中の「ディスク ジョウホウ」で、それぞれのフォーマット（種類）が一致しているかを確認して下さい。
205	ターゲットハ ブランクデハ アリマセン	書込ディスクが書換可能ディスクまたはブランクディスクではありません。「ユーティリティ」の中の「ディスク ジョウホウ」で、ブランクディスクかどうかを確認して下さい。
206	ターゲット&マスターノサイズガ チガイマス	コンペア中にこのエラーが発生した場合は、マスターディスクとコピー済ディスクのサイズが異なっています。コピー中にこのエラーが発生した場合は、ブランクディスクの容量がマスターディスクと異なっています。
207	ターゲット M コードガ コンザイシテイマス	それぞれの書込ドライブに挿入されたブランクディスクの製造コードが同一ではありません。（複数の異なる種類のディスクが混じっています）同一種類のディスクを入れ直して下さい。
208	ディスクガ RW デハアリマセン	ターゲットディスクは RW（書換可能）ディスクではありません。「ユーティリティ」の中の「ディスク ジョウホウ」で、全ての書込ドライブ内に RW ディスクが挿入されているかを確認して下さい。
209	マスターディスクニ CSS プロテ クトガフクマレテイマス	マスターディスクにコピープロテクト（禁止）が付加されていて、コピーが出来ません。コピープロテクトの掛かっていないマスターディスクを用意し、ご利用下さい。
210	ディスクガ フリヨウデス	書込ドライブにブランクディスクが検出されましたが、正常な認識が出来ませんでした。ディスクの品質（汚れ、エラー等がないか）を確認して下さい。
211	コノフォーマットハ テストデキマセン	書込ドライブのディスクが、テスト機能を利用できない種類のディスクです。（DVD+R、DVD+RW、DVD+R DL、BD-R、BD-RE）
212	DVD ディスクノ コピーハ デキマセン	DVD ディスクが挿入されましたが、DVD に対応しないシステムおよびドライブが使用されているため、DVD の利用が出来ません。対応するシステムをご利用下さい。
213	DVD-RAM ディスクノ コピーハ デキマセン	DVD-RAM ディスクが挿入されましたが、DVD-RAM に対応しないシステムおよびドライブが使用されているため、DVD-RAM の利用が出来ません。対応するシステムをご利用下さい。
214	Blu-ray ディスクノ コピーハ デキマセン	Blu-ray ディスクが挿入されましたが、Blu-ray に対応しないシステムおよびドライブが使用されているため、Blu-ray の利用が出来ません。対応するシステムをご利用下さい。（BD-R、BD-RE）
230	HDD ノ ヨウリョウガ タリマセン	マスターディスクのデータサイズが、HDD の空き領域よりも大きいためイメージロードが実行出来ません。不要なパーティション（イメージデータ）を削除してください。

コード番号	エラーメッセージ	解説
231	ヨブンナ ナマエ	入力した名前は既にシステム内に存在（重複）しています。別の名前を入力するか、既存の名前を変更してから再入力して下さい。
232	フォーマット シツパイ！	HDD のフォーマットが出来ませんでした。HDD に何らかの問題が発生しています。
233	パーティションガ ハソンシマシタ	HDD の情報（データ）が壊れています。HDD をフォーマットして下さい。
235	ハードディスクノアクセスエラー！	HDD にアクセスした際にエラーが発生しました。HDD に不良が発生した可能性が高いです。技術サポート窓口へお問い合わせ下さい。
240	パスワードガ チガイマス！	入力されたパスワードが間違っています。パスワードを再度確認の上、入力をやり直して下さい。
241	ログイン シツパイ	パスワードの入力に3回連続して失敗しました。5分間入力受付を停止（ロック）されますので、5分後以降に再度入力を試みて下さい。またそれでも入力が失敗する場合は、技術サポート窓口へお問い合わせ下さい。
250	HDD イガイノ ソースヲ センタクシテクダサイ	ミックスオーディオトラック機能をご使用する際、ソースがHDD になっていると利用できません。ソース選択 (P.14) をオーディオ CD が挿入されている読込ドライブに設定して下さい。
251	オーディオ CD コピー エラー	オーディオ CD のミキシング中にエラーが発生しました。別のマスターディスクまたはブランクディスクでやり直して下さい。
252	オーディオ CD ガ アリマセン	ソース選択されたドライブに入っているディスクがオーディオ CD でないため、ミキシングの準備が出来ませんでした。ディスクがオーディオ CD であるかご確認ください。
253	ブランクディスクノ ヨウリョウヲ コエタイマス	オーディオディスク編集したデータが、ブランクディスクの容量を超えているためコピーができません。再編集して、ブランクディスクの空き容量に収まるサイズにして下さい。
254	オーディオマスターガ ソンザイシマセン	ソース選択されたドライブに入っているディスクからオーディオデータが読み取りできません。ディスクをご確認下さい。
255	CD+G マスターハブランク CD ヲ ヘンシュウデキマセン	CD+G 形式で作成されたディスクは編集が出来ません。CD+G でないマスターをご使用下さい。
260	アップデートファイルガ アリマセン	ファームウェア更新の際、システムは更新ファイルを見つける事が出来ませんでした。アップロードデータが書き込まれたディスクが正常に作成されているか確認して下さい。（MODE1 のデータ CD 規格にのみ対応）
261	モンダイノアル アップデートファイルデス	挿入されたディスク内にあるアップデート用のファームウェアは、ご利用のシステムに使えないか、データが壊れているためアップデート出来ません。適切なものをダウンロードし、ディスクを再度作成して下さい。
262	フメイナ フラッシュモデル	適切なファームウェアが見つかりません。技術サポート窓口へお問い合わせ下さい。
263	User Abort ユーザーテイシ シテイマス	利用者の操作により動作が中断されました。ESC が 5 秒間押し続けられると中断されます。任意のディスクを挿入し、動作を再開して下さい。

※ 注意

ファームウェアのアップデートは危険を伴います。動作不良になったり、場合によってはシステムが壊れる場合があります。必要でない限りはアップデートしないことをお勧めします。

製品仕様

● 全機種共通仕様

書込対応、最大倍速	DVD-R 16x, DVD+R 16x, DVD-R DL 8x, DVD+R DL 8x, DVD-RW 6x, DVD+RW 8x, CD-R 32x, CD-RW 24x
読込対応メディア	DVD-ROM, DVD-Video, DVD-Audio, DVD-R, DVD-RW, DVD+R, DVD+RW, DVD+R Double Layer, DVD-R Dual Layer, CD-ROM (Mode1 & Mode2), CD-ROM/XA (Mode2 form1 & form2), CD-DA, Mixed-Mode, Video CD, CD-I, Photo CD (Single & Multi-session), CD-Extra, HFS, CD-Bridge, ISO9660, CD-R, CD-RW
バッファメモリ	128MB
HDD容量	DVDドライブモデル：500GB / Blu-rayドライブモデル：1TB
ディスプレイ	20文字 × 2行
表示言語対応	日本語 / English / Spanish / French / German / Italian
電源	入力：115V ±10%
動作温度	5 ～ 40℃
動作湿度	20 ～ 80%（結露しないこと）
保証期間	1年（光学ドライブ部品は消耗品の為1ヶ月の保証期間となります）

● モデル別仕様

DVD版 型名	SHARK-2/DVD	SHARK-4/DVD	SHARK-6/DVD	SHARK-8/DVD
Blu-ray版 型名	SHARK-2/BD	SHARK-4/BD	SHARK-6/BD	SHARK-8/BD
ターゲット数	2	4	6	8
外寸(WxDxH mm)	178 x 305 x 216	189 x 340 x 302	190 x 530 x 380	190 x 530 x 468
重量(kg)	5.4	7.3	11.8	14.5

DVD版 型名	SHARK-10/DVD	SHARK-11/DVD	SHARK-14/DVD	SHARK-15/DVD
Blu-ray版 型名	SHARK-10/BD	SHARK-11/BD	SHARK-14/BD	SHARK-15/BD
ターゲット数	10	11	14	15
外寸(WxDxH mm)	190 x 530 x 557	190 x 530 x 660	190 x 530 x 762	190 x 530 x 839
重量(kg)	17.3	20.4	24	25.9

デュプリケーターの動作が安定しなかったり、書き込まれたディスクがプレイヤーやパソコンなどで読み込みが出来ないなど、おかしい点が発生していましたら、まずは以下の点をご確認下さい。

● **ディスクがプレイヤーで再生できない**

プレイヤーでの再生が行えない場合は、以下のような可能性が考えられます。

- ① DVDプレイヤーでの再生をするのに、DVD-Video形式のマスターではない。
- ② 音楽CDプレイヤーでの再生をするのに、CD-DA形式（音楽CD）のマスターではない。
- ③ プレイヤーでの再生をするのにRメディアではなく、RWメディアで書き込みを行なっている。（特にCDの場合）
- ④ ディスクの規格仕様が対応していない。（16倍速DVD-RメディアはVer. 2.1規格で、比較的新しい機器でしか対応していません。8倍速以下をご利用下さい）
- ⑤ パケットライトソフトで作成したマスターを複製した。（パケットライトはソフト依存の方式のため、読み込む機器にも同じソフトが必要な場合が多い）

● **マスター（ソース）ディスクがファイナライズ処理されていない【オープン状態】**

デュプリケーターはマスターディスクに適切な終了処理（ファイナライズ）が行われていることを前提として動作が行われます。

ファイナライズ処理（クローズ状態）になっていないディスクをマスターとして利用した場合には、書き込みが正常に行われない可能性があります。（適切な処理が行えず読み込みが出来ないディスクを作成してしまう場合があります）

この状態を回避するためには、マスターを作成する際に必ずファイナライズ処理（ディスクのクローズ）を行うようにしてください。

また、ファイナライズ処理がされていないディスクは、プレイヤーなどでの再生・読取互換性も低く、対応できない場合が多いため、再生などが行えない場合は、ファイナライズ処理がされているかの確認も行いましょう。

● **ディスク記録面の汚れやキズがひどい（マスター、ブランク共に）**

ディスクの記録面に直接手を触れたり、ホコリなどの汚れが付着していると、ドライブのレーザーが乱反射して正常に読み書きが出来なくなることがあります。

● **電源をマルチタップ（タコ足）から供給している**

高出力のレーザーを利用するドライブが多数取り付けられているデュプリケーターの電力は、大型テレビやエアコンなどと大差ないほどの大きな電力を使用します。

マルチタップを使用すると、電力が分散し、デュプリケーターに安定して必要十分な電力が供給されないことがあり、動作の停止や不安定さが発生する可能性があります。

● **温度が高い、ホコリが多いなど、動作環境として適切でない**

動作を推奨する温度や湿度などに適さない環境での使用を行った場合は、機器が本来の性能を発揮できず不安定になったり、動作が行えなくなる場合があります。

ホコリの飛散が多い場所で使用するとドライブ内に溜まり、短時間で故障する場合があります。また、通気口が詰まって冷却能力が低下し、ドライブ等が高温になり異常が発生しやすくなる場合があります。可能な限りクリーンかつ、仕様に記載の動作温度内に維持された環境でご利用下さい。

● **ディスクが粗悪品**

製造上の品質が悪い場合や、製造されてから長期間保管されて劣化したディスクは、ドライブのレーザーに対する感度が悪く、正常に読み書きできない場合があります。新たに、型番などが異なるディスクをお試し下さい。また、PC等の記録用ドライブで正しく書き込みが行えるか確認いただくのをおすすめします。

MEMO